

県立東播磨生活創造センターの管理運営に関する評価〔平成 27～29 年度〕

(平成 30 年 3 月 19 日(月)2017 年度かこむ審議会)

※以下は、かこむ審議会審議員のうち外部有識者（兵庫県職員を除く）からの意見の概要をまとめたものです。

1 利用状況

- ・県立東播磨生活創造センター（以下「センター」という。）の施設利用率は年々向上し、平成 29 年度は過去最高に達する見込み。また、利用者の多様化もすすんでいる。
- ・利用者同士のコラボレーションやプラットフォーム化といった事業展開により、積極的に団体間のつながりを構築することなどに取り組んだ結果であると評価できる。
- ・一方で、利用者の多様化に伴い、県が展開する生活創造センターの設置趣旨に沿わない施設利用が懸念されるので留意する必要がある。

2 運営業務

- ・センター窓口での指定管理者が配置しているスタッフの対応は良好である。
- ・センターで行われている各種事業が、センターという場所以外でも地域の活動とも繋がるのが望ましい。
- ・指定管理者がセンターにて実施している「地域の関係づくり」にかかる活動の内容は、他の類似施設を運営する際にも参考になる。
- ・様々な事業やサービスの提供を行うことで利用率は向上しているものの、まだまだセンターの存在や業務内容が地域住民に浸透していないことが課題。特に、施設が位置する加古川市以外（高砂市など）での認知度が低い印象。
- ・今後、東播磨地域を拠点とする放送事業者である BAN-BAN ネットワークス(株)の持つネットワークやインフラを活用し、より地域に向けた情報発信を行うことを期待するとともに、地域の声を拾い上げる役割も担ってほしい。
※次期指定管理期間（平成 30 年 4 月～）においては、現指定管理者である NPO 法人シミズシーズに BAN-BAN ネットワークス(株)が加わった共同事業体が指定管理者として指定されている。
- ・利用者満足度アンケートでは、夏場や冬場に空調を柔軟に調整できるようにしてほしい旨の声が多数挙がっている。指定管理者だけでは対応できない部分もあるため、庁舎管理者（県）と調整してほしい。

3 運営体制

- ・限られた指定管理料の中、ボランティアの協力も得ながら事業に工夫を重ねて効率的に運営されている。

《参考》2017 年度かこむ審議会審議員 (外部有識者)

氏名	役職等
塩澤 岩光	東播磨青少年本部長
田端 和彦	兵庫大学副学長兼エクステンションカレッジ長
榎本 英樹	NPO 法人生涯学習サポート兵庫副理事長
松田 康之	神戸学園都市 YMCA こども園園長
春下 充代	菓茶みきや代表

(兵庫県)

氏名	役職等
住本 昌彦	兵庫県東播磨県民局地域振興室長
板東 由佳恵	兵庫県東播磨県民局地域振興室室長補佐兼県民課長
小木曾 弘康	兵庫県企画県民部県民生活局県民生活課生涯学習班長